

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500052		
法人名	株式会社グレイトホーム		
事業所名(ユニット名)	グループホームいとが 1階ユニット		
所在地	和歌山県有田市糸我町西43-3		
自己評価作成日	平成22年4月22日	評価結果市町村受理日	平成22年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3091500052&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成22年5月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>スタッフが極力、入居者の方々とゆったりとした時間を過ごせるように、常に意識をしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの理念は職員が自分であればどのような介護を受けたいか意見を出し合ってつくり上げたもので、職員は理念を共有しており、日々の業務の中で出来ることは利用者に自らやってもらい利用者の自立を支援するケアを目指している。地域の伝統的な行事にホームから参加したり、ホームで行う各種の催しに地域の人々が参加し積極的に相互交流して、地域とのつながりが密接である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が「いつも・ともに寄り添い・あなたのかがやく姿を見ていたい」を共有の理念として、意識をして日々の業務に取り組んでいる。	ホームの理念は「いとが」の名称から、「いつも、ともに寄り添い、あなたのかがやく姿を見ていたい」としており、法人の理念のなかでは地域との繋がりを重視し安心して社会生活を継続していけるよう支援しますという趣旨が示されている。ホームの理念は職員が自分であればどのような介護を受けたいかをまとめたもので、ミーティングでも触れるようにしており、利用者が自立することが出来るよう職員は理念を念頭に置いて日々の業務に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内の祭り等にも参加し、また夕涼み会・もちつき大会などを行い自治会・老人会を含めた地域の方々に来訪して頂き、地域との交流に努めている。	地域で行われる祭りなどに参加したり子ども達が神輿を持って訪れ交流している。またホームで夕涼み会、もちつき大会を行ったとき民生委員や老人会の役員を含め子ども達や地域の人々が来訪し賑やかに交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校から認知症ケアについての説明会の依頼があったり、近隣の福祉専門学校へ認知症ケアについての授業を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の取り組みについてや、グループホームについての内容報告などを基盤として、話し合いを行なっている。	運営推進会議ではホームの行事や利用者の生活状況、外部評価結果等を報告し、メンバーから外出は利用者と一緒に行くのは大変でしょうというねぎらいの言葉やボランティアにより利用者が化粧をしてもらい取り組みが評価され、またショートステイや入居待機者についての質疑や意見等を出してもらいそれらをサービス向上の参考としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者・関係者との関係は良好であり、こちらから訪問・電話だけではなく、近くに来た際には気軽に来訪していただき、意見等を頂く機会も多い。	市の担当者とはショートステイの条件等について尋ねたり、またホームが行っていることについての情報を提供することもある。なお職員がホームに立ち寄ってくれた機会に職員から意見等を聞くなど日頃から協力関係を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング内で身体拘束に関する理解も含め、言葉の拘束(スピーチロック)についても研修を行い、取り組みに努めている。	ミーティングで職員に禁止の対象となる身体拘束について理解するよう説明しており、利用者の行動を制止する言葉の拘束についても研修を行っている。玄関には日中鍵をかけず、ドアを開ければチャイムが鳴るようにし、外へ出る傾向のある人は事故の危険があるので、職員が見守りついて行くようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング内で関連法についての研修を行い、学習の機会や意識の向上に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング内で制度等の研修を行い、学習する機会を設けている。また、入居者で制度を活用されている方もおり、関係者から直接、意見や制度内容を聞かせて頂ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書に基づいて十分な説明を行い、納得・理解・同意の上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内にご意見箱を設置して、投函してもらったり、家族の方が来訪時に直接報告したり、電話連絡をすることで意見交換を行っており、入居者の方の日常生活の支援に反映させている。	利用者・家族から意見等を聞くためホームの玄関に意見箱を置き、また苦情等があれば申し出てくださいと掲示している。家族等が来訪時や電話で直接管理者や職員に意見等が出されることがあるが、出された意見は検討の上改善している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	組織体制の見直しを図り、月1回のミーティング内で職員間で話し合いが出来る環境を設け、ボトムアップの意見・提案を出しやすい雰囲気作りをしている。また必要に応じて、開催頻度を多くして状況にあったものとしている。	組織体制の見直しを図り、月1回のミーティングはユニットごとに職員の意見や提案の出やすい環境をつくっており、職員の色々の気付きによる提案が取りあげられ運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給等で職員個々の努力や実績を反映している。また、職員個々の資格取得のために情報提供や独自の勉強会を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修だけではなく、外部研修の参加の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会(地域密着型サービスケアネット和歌山)に加盟し、交流の機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談の際に思い等、じっくり話を聴くようにして、出来る限り不安なく利用して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から家族等の考えや思いなどを聞き取り、不安の無い様に円滑に利用できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を聞き取りながら、入居に対する迷い等が見られた場合、現状で利用可能なサービス等を含め、情報提供や連絡調整等を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることを極力して頂きながら、出来ないことを職員が支援していく姿勢を常に意識して実践に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や行事などで面会の機会を設けたり、一緒に食事に行くように勧めたりと、出来るだけ家族に協力して頂けるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事参加や親類・友人等の面会を勧めています。	これまで馴染んできた地域の寺などの行事に参加したり、以前利用者がよく行った饅頭屋へ立ち寄るなどの支援をしており、家族の来訪時には親類や友人に尋ねてきてもらうように勧めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員それぞれが雰囲気を感じ取れるように意識して、状況により介入しながら円滑な関係が構築できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対象となる方は現状ではないが、必要があれば継続的な関係性を維持していきたいと願っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティング内で話し合い、必要に応じて意見等を職員間で検討し、把握・実践に努めている。	利用者で話すことが出来る人は、コミュニケーションをとり希望や意向等を把握するようしており、また職員間のミーティングでも利用者一人ひとりの希望や意向などを検討し把握するように努めている。なお希望や意向等の把握の困難な人は、家族から利用者の以前の生活歴などの情報を聞き参考にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報収集したり、直接本人から聞いて情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング内での情報交換を含めた職員からの情報や、直接確認して把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の意向を聞き、職員で話し合い介護計画につなげている。	家族・本人の意向を踏まえ、日頃担当している職員の気付きや意見を出し合って各利用者の介護計画を作成し、家族が来訪時に説明し同意を得ている。介護計画は3～6か月に1度、また心身の状態等に変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要に応じて、職員間での申し送りノートなども活用して、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単独型であるが、自治体・他事業所との連携により、要望等があれば支援できるよう体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会、公民館・派出所など、地域にある資源との協力は積極的に行い、必要があれば対応できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人・家族等の要望を確認し、受診の支援を行っている。	本人・家族の希望で入居前の病院等で受診している利用者もいるが、多くはホーム近くの協力医の受診を希望しており当医院への通院を支援している。また認知症の専門医や歯科、眼科等への通院についても職員が送迎して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との連携は図れており、往診等は積極的に対応して頂けているが、医療連携体制加算を算定していない現状、看護職との協働は図れていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関通じて入退院の対応は円滑である。また病院の地域連携室との連携も行っているため情報交換・相談等も円滑に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族等との重度化・終末期についての話し合いは行なっているが、事業所としての方針が定められていない。	本人・家族とは重度化や終末期にどうするかについて話し合いを行っているが、ホームで対応出来ることと出来ないことがあり、重度化したときや終末期のあり方についての方針をチームで話し合っているとはいえない。	本人や家族の意向やホームで対応しうる最大の支援方法を踏まえて、医師の診断を含め職員間で話し合い方針を共有することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを整備し、対象となり得る可能性の高い入居者については個別に研修を行なって実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時のマニュアルを整備しているが、消防署・派出所等への働きかけを行い、協力が得られるようにしている。	災害に備え消防署と連携して利用者の避難訓練を年2回実施しており、消火訓練も行っている。地域の人々には災害時に協力が得られるよう、ホームを自治会の一戸の家と見てほしいと働きかけを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が入社の際に誓約書を取り交わしており、対応はもちろんのこと、記録等もイニシャルを用いて徹底している。	日頃から職員は利用者一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを傷つけるような言動がないよう注意しており、呼び方にも気をつけている。また職員は入社時に守秘義務についての誓約書を提出し、利用者の記録も名前はイニシャルで記入し、個人情報漏れがないように注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えや献立など本人の自己決定が必要な場面は極力、尊重できるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、本人のペースに合わせて見守りながら、一緒に過ごす時間を作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や化粧品は本人の希望に添うようにして、必要に応じて職員と一緒に決めさせて頂く。美容室(来訪・一緒に行く)は定期的。他に2・3ヶ月に1回化粧品メーカーとの連携にて講習会も実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新聞の折込チラシを見ながら献立の話をして、食べたいものから買い物、準備、食事、後片付けに至るまで全てを一緒に行っている。	新聞の折込みチラシを見ながら利用者・職員で食べたい献立について話し合い、食材の買出しを行っている。また出来る人は、いもなどの皮むきや巻き寿司などをつくり、食後も膳の消毒や食器洗いなどを行い、見守りや介助を要する人もいるが職員と一緒に会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取等のチェック表を用いて、必要な量などが確保できるよう支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で磨ける方はペースに合わせて声かけを行って磨いて頂いている。出来ない方は職員が支援しながら口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表等により本人の排泄パターンの把握に努め、オムツ使用の方であっても、トイレでの排泄を出来るように支援している。	排泄チェック表等によりいつトイレに行くか利用者の排泄パターンの把握に努め、失敗すれば次回からその時間帯に誘導するようにしている。またおむつを使用している利用者にもトイレで排泄できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはかかりつけ医と相談の上、飲食物の工夫などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	常に利用者全員に希望等を確認し、日中であればいつでも入浴できるように支援している。	利用者全員に入浴の希望を聞き入浴を楽しめるよう日中であればいつでも入浴できるよう支援している。また入浴を拒否する人は、声かけする職員を変えたり、入浴剤を入れたりしてその気になるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ、休息や睡眠が取れるよう支援を行っている。夜間眠れない方には無理強いをせずに共に居間などで過ごすように働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々のファイルに服用している薬の内容等の情報を添付しており、情報の共有が図れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や性格等を考慮して、家事全般等において個々に役割分担を行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、喫茶店など、日時を定めずその時々本人の希望等に添って、気軽に外出できるように支援している。	利用者の希望等に沿って買い物や喫茶店に行ったり、近辺の散歩などの外出を支援している。また職員が付添い彼岸や盆に墓参りに行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、希望等あれば同意の上、本人に管理してもらっている。共に買い物に行き、支払いもご自分でして頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って電話をかけたり、手紙のやり取りなど支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつでも自由に行き来できるようにしている。気分転換を兼ねて模様替え等をおこなったり、各種写真や手作りのカレンダー・行事のポスターなどを掲示し、話題作りしやすいような空間にしている。	共同室・食堂などには壁面に行事の写真や手づくりのカレンダーなどを貼り、ソファを置いて利用者同士話し合ったりテレビを見てくつろげるようにしている。部屋はカーテンで明るさを調節しており、テレビや職員の声のトーンも適当と感ぜられる。またホームの所々に生花を活け季節感を出すようにしており、居心地よく過ごせるような環境づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや食堂内のカウンター席など思い思いに過ごせる居場所があり、それを活用するように働きかけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のスペースに合わせ、特に持ち込みの制限はしていないので、ご家族等と相談しながら使い慣れたものなどを持ち込んでいる。	居室には、家族から使い慣れたタンスなどの家具が持ち込まれ、職員が提供したカーネーションの鉢植えや小さなぬいぐるみなど好みの物を置いて、自分の部屋として居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩ける方はもちろんの事、歩行器や車椅子等の移動補助器具を使用しても移動し使いやすいように洗面台やテーブル、手すりの配置など工夫した作りになっている。		